第117回愛知学院大学　モーニングセミナー

忍者って何？

～起源と役割を探る～

甲賀忍之伝宗師家
川　上　仁　一

2015年12月8日

1、はじめに

今やNINJAは世界中で知られる存在である。
学術的な研究が浅く未解明の部分が多い。
誤解された忍者像が国内外に蔓延。
日本独自の文化としての忍者を広報する必要性。
歴史的、社会的意義や科学的観点での研究。
忍者は封建の時代に実在した専門職である。
諜報・謀略・撹乱の技術の集大成が忍術。
忍者の起源を探れば、その役割を理解出来る。
忍術には現代に通じる有用な部分も多く含む。
（情報収集、危険回避、健康増進等々）

2、忍者の存在

「忍び」は史書に載り存在は事実である。

（中世より現れ、それ以前の記録には載らない。）

軍記物等での記載は多いが一次史料は僅少。

（性質上、記録されない場合が多く有ったかも？）

活動の実態、技術の実証は困難が多い。

（信頼の置ける記録が殆ど残っていない。）

伝承、考え方の探求は信頼性に疑問有り。

（口承や伝書等の真実を探るのは容易ではない）

事実の背景や意義を探ることも重要である。

（偽伝であっても、成立事情を知ることが大切）

3、忍者の呼称

忍者と記し、しのびのものと訓んでいた。（江戸期）

しのび、にんしゃ、とも表現。（伝承など）

史書の表現では忍び、細人が初出。（太平記）

にんじゃ、NINJAは昭和期に普遍化。

伊賀衆・甲賀衆等は必ずしも忍者を意味しない。

史実としての存在を〔しのび〕、虚構を含む文化として表現の場合を〔にんじゃ〕と呼称の提唱あり。

忍者は時代により変容し、呼称も変化している。

参考：乱波、透波、突波、草、等々の異称あり。

4、忍者、忍術とは。

我国の風土、文化、心性の中で独自に発達、形成。
諜報、謀略、撹乱、奇襲などの古典的な軍事技術。
自存自衛のため、種々の知識、技能を集積した術技。
江戸期の武家文化の中で集大成。

・自己や家族、地域、また天下国家を守る。
・日々に情報収集し、変には迅速果敢に対応。

忍術を用いて大義を全うするための活動を行うことを職（業）とする人が忍者。
（学び、会得しているのみでは忍者とは云い難い。）
忍術は綜合生存技術で、時宜に応じ忍びとして活動。

5、多様な忍者像

時代、世代などにより様々なイメージで変容。

・胡散臭く架空の存在としての認識が一般的。

・幼時よりの過酷な修行で、一子相伝の秘術を修得。

・山岳ゲリラやスパイの一種。

・中世～近世初期・・・盗賊、伏、物見、夜討

・近世・・・・・・・・・・・・・・間者、隠密、妖術遣い

・近代～・・・・・・・・・・・・・超人、暗殺者、下層民

スパイ、秘術を駆使のヒーロー

・現代忍者の登場(昭和30年代位より)

・特殊な武術を駆使する戦闘者。

・世界各国で武術としての忍術？が。普及

6、忍術・忍者の起源と発達

大陸よりの伝来説・・・・武経七書の間諜

・殊に孫子兵法の用間

・遁甲方術の伝来

我国独自の発達説・・・日本的思考や習慣

・気候、風土、心性、地政など

・間諜の訓に伺見(うかみ)

・中国兵法は支配層のもの

・殊更に伝来を説くのは？

・奈良時代以降の記録に無い

・中世に忍びとして現れる。

7、忍者と間諜の相違

忍術は間諜の手段を包含した具体的な軍用術技。
忍者は、その術技を駆使し業(職)とする者。
中国兵法の間諜は為政者の支配手段により編成。
間諜は情報収集を主とし、現代のスパイそのもの
忍者は家伝として忍術を伝え、集団としても存在
（これは江戸期よりの伝承ではある。）

9、中国兵法の日本への伝来

開化天皇時代(BC100年以上前)

・漢より履陶が六韜、三略を伝えた。（訓閲集）

天平7年(735)4月

・吉備真備が唐より帰朝。（その際、兵書も持ち　帰った可能性有り。）

天平宝字4年(760)11月

・吉備真備が八陣、孫子、陣の設営を教授。
（続日本紀）

8、間諜の記録例(日本)

推古天皇九年(601)

九月辛巳戌子　新羅之間諜者迦摩多到対馬。

則捕以貢之　流来于上野(日本書紀)

天武天皇元年(672)壬申の乱の記事

春三月・・・自近江京至倭京　処々置候

(日本書紀)

天平十二年(740)藤原広嗣の乱の記事

九月二十四日・・又間諜申云　広嗣於遠珂郡家造

軍営儲兵弩　而挙烽火　徴発国兵矣(続日本紀)

〇　間諜、候は窺見(うかみ)と訓ずる。

10、訓閲集、兵法秘術書の伝承

延長元年(923)

大江維時が入唐し兵法等を学ぶ。

承平四年(934)

帰朝し兵書を和訳し家伝とする。（訓閲集）

・兵法秘術書は吉備真備、大江維時が唐より伝えたとされるが、真言系の呪術中心の偽書とされる。

・この中には姿を隠したり、呪殺の方法などが説かれ、世の忍術への影響が見られる。

11、孫子で説かれる間諜

用間篇

★ 五間

- 因間　敵国の人を間とする。
- 内間　敵国の不満分子、欲深い者を間とする。
- 反間　敵国の間を我が方の間に利用する。
- 死間　敵国を欺く為、間の死を予期して送る。
- 生間　敵国に潜入し機密を探り帰る間諜。

★「間書」（1855）朱逢甲が著した、間諜用法を集大成した事例集にも五間を主にして解説している。

12、忍びの古伝承（秘伝書記載）
神話伝承より引かれた説が中心

素戔嗚尊が奇稲田姫を湯津爪櫛に化身させる。
高皇産霊尊が無名雉を遣い様子を探らせる。
神武天皇東征の際、椎根津彦や弟猾の謀と変装での
敵地潜入。
神武東征の際、頭八咫烏、日臣命に嚮導させ敵を討つ。
道臣命は密策(しのびのみことのり)により諷歌倒語で
妖気を掃蕩。・・・甲賀伴氏の忍術起源説。（日本書紀）
大己貴命、少彦名命の蜘蛛縛、熊曾絞。（甲賀流伝書）

13、天文占と兵陰陽、　　奇門遁甲訓閲集との関連

天文、陰陽五行、雲気などの理を活用した兵法や呪術。

太白陰経や虎鈴経、武経総要、武備志等にも間諜に関しての記載が有り、観天望気、占術も多彩に載せられている。

これらが日本兵法の源流ともされる大星思想と融合した可能性。

訓閲集などに載る雲気やト占、軍法との関連性。

安時代以降、密教、俗信仰、陰陽道、修験道など混交した日本独自の軍敗兵法が行なわれ、後世の忍術へも取り込まれていった。

14、忍書による忍びの区分

正忍記（紀州藩に伝わった新楠流の書　1681）

- 忍の兵の品
- 唐間　孫子の五間に相当する
- 因口の間　　敵地の言葉を活かす。（奪口）
- 内良の間　　敵の近臣等を用いる。
- 反徳の間　　敵の忍びを味方とする。
- 死長（良）の間　恩を与え死を賭し行なう。
- 天生（上）の間　敵国に潜入し行なう。
- 楠流では六ツの忍としている。
- （奪口の忍）　天下の情報を得る忍び。

・郷導　　道の案内
・外聞　　敵中へ入らず情報を得る。
・忍者　　日本の忍者。盗人と似るが盗らない。
・盗人　　不敵で道理を弁えない。

ここでは忍者は盗賊と似ているとし、活動の類似　を述べるが、「忍びの本は正心」と説く伊賀、甲賀の忍術書「万川集海」と共通する心構えを見て取れる。

15、「間諜」と「忍び」の差異

間諜は支配者層の目的により起こる。

中国兵法書は将の為の用兵、軍学教本である。

多くは謀略、諜報の原理論で、具体的方法は僅　少である。

忍術は民衆の自存自衛手段より工夫される。

兵法、武術、宗教、薬方等々を総合した生存技術として蓄積され、時宜により間諜の役割も果たす。

忍術書は伝承のための手段として編まれており、謀略、諜報、侵入、破壊等の実践書である。

16、忍術の発生要因

人間の本性

・必ず闘争し他より優位に立とうと思考し行動。

・相手の様子を探り、弱点を衝くことは普遍的。

日本人の特性

・多様な人々との交わりで醸成された民族性。

（戦わず制し共存して融合同化させる。）

・村社会（地域共同体）での安定生活を維持。

（血縁や地縁の重視）

・四季や風土と心情に根差した心性。

（細やかな心配りと繊細な思考）

・外来文化や人を取込み独自のものとする融通性。

日本、日本人の特異性

・大規模戦闘できない狭い国土。（逃げ場が無い）
・国土の大半を山岳で占め、周囲を海洋で閉ざす
閉鎖地形。
・明確で繊細な季節と、農耕定住を主とした生活。
・怒り、悲しみ、喜びなどの感情を抑制。
従って、常に相手の心中を探りながら対応。
・日本語の曖昧性。（言霊の国）
・伝承、伝統を重く見る思想。
・全体として同一民族性であり不戦の思想。

17、忍術・忍者の形成過程

原始狩猟採集生活　農耕定住　闘争社会

（古代の窺見 → 中世の忍び → 忍の者）

・古代からの争乱（間諜の活躍）

・平安時代以降の国風重視策（日本固有の文化形成）

・荘園制と武士の発生（悪党、盗賊の跋扈）

・民衆自立と戦闘集団の支配（惣や一揆の形成）

・群雄割拠の戦国争乱から武士統治時代

（侍衆の忍びの活動が日本各地で盛行）

・平和安定の武家社会の時代（忍術として大成）

・近代国家形成の時代（忍びの者の終焉）

・近現代に至り忍者が登場（変容した忍びの者像）

18、忍者発生の背景

伊賀、甲賀は多様な人々、知識、技能が集積。
独立志向の強い村落共同体の伊賀・甲賀の地域。
渡来の人々も多数定住し、事物と共に融合同化。
古代に斥候（窺見）などを配する軍制が布かれる。
通信手段として烽候（とぶひのうかみ）を設置。
神、儒、仏一体の宗教観の日本人への影響。
「和を以て貴しと為す。（聖徳太子の憲法」
修験道との関わり。（業や信仰、思想、知識など）
東大寺の杣や荘園制。
荘園制が乱れて崩壊し、武士が発生。（武力闘争）
荘園領主の支配を排除する悪党の出現。

浄土教の布教による民衆の自立や集団行動。（伊賀）
悪党行為（権力への武力での対抗）の常態化。
武力闘争の中より情報操作や撹乱技術が蓄積。
南北朝の争乱頃より「忍び」の働きが顕れるか。
応仁の大乱以降、伊賀・甲賀での群小土豪の争い。
偵察を行い、撹乱・奇襲する独自の兵法が発達。
戦国以降より職能としての「忍びの者」が現れるか。
戦国期に於ける、甲賀郡中惣・伊賀惣国一揆の形成。
民衆自治の共和体制を確立。（伊賀・甲賀の連携）
江戸期に儒学思想も取り入れ、忍術として集大成。

19、忍者発生の基層

和と仁の文化や心性。

宗教は万教帰一。

（神・儒・仏の思想の共通思想）

日本独自の宗教（修験道）の影響。

（信仰、修行、術技など）

弱小集団や個人の自存自衛手段。

（情報操作や撹乱などの効果）

村落共同体指導層よりの軍事手法が工夫。

（侍衆から忍びの呼称が生まれる）

武家社会の理念（武士道）と関連付け。

（儒教の影響などにより意義付けが図られていく）

20、おわりに

★　忍術は軍用目的で編まれているが、基層や形成過程に日本人固有の資質が在った。

★　忍者の活動は、総合生存技術としての忍術である〔和〕の思想の実践とも云える。

★　忍者は、自然や人と融和し謙譲しながら、共存する手段としての忍術を駆使する者である。

★　森羅万象と和合していく日本の〔和〕の心の実践者。

★　混沌の現代こそ、忍者の価値が有り普遍性を発揮。

忍者は日本固有の風土、心性、文化の中より　生まれ、集団の安寧を守る役割であった。